

平成30年度県立長野図書館事業費

【平成30年度当初予算案について】

- ・平成30年2月定例会(平成30年2月16日開会)において審議中
- ・3月14日議決予定

県立長野図書館 事業費

1 施設概要及び利用者数

施設概要 (H29.4.1)	所在地	長野市若里1丁目1番4号						
	開所	昭和54年度(昭和4年度設置)						
	敷地(m ²)	6,744m ² (建物4,835m ² 駐車場1,909m ²)						
	建物(m ²)	RC 本館 8,614 m ² 車庫 67m ² 計 8,681m ²						
平成28年度 利用状況	職員(人)	館長 1 総務課 3 企画協力課 8 (うち嘱託3) 資料情報課 22 (うち嘱託11) 計 34人(うち嘱託14人)						
	所蔵資料	図書	一般	児童	郷土	計		
		フィルム等	513,647冊	91,483冊	89,142冊	694,272冊		
平成28年度 利用状況	開館日数	平日	土日祝日	計				
		172日	105日	277日				
	利用者数	平日	土日祝日	計	1日平均利用者数	平日	土日祝日	
		155,595人	110,155人	265,750人		905人	1,049人	
	貸出状況	図書資料	平日	土日祝日	計	1日平均貸出冊数	平日	土日祝日
		64,195冊	64,370冊	128,565冊		373冊	613冊	
	フィルム等	映画フィルム	8本	VTR教材	6本			
登録者数	82,588人 (新規登録者数 2,869人)							
相互貸借利用	5,604冊 (図書館間、行政機関等との相互貸借)							
調査相談の状況	電話	口頭	メール他	計				
	2,933件	2,704件	521件	6,158件				

<年度推移>

年度	利用人員	貸出冊数	登録人員		相互貸借	蔵書数
			累計	新規		
23	204,769人	146,809冊	68,271人	3,242人	4,821冊	677,022冊
24	226,719人	149,943冊	71,458人	3,167人	3,962冊	670,696冊
25	211,736人	138,858冊	74,107人	2,933人	5,125冊	681,205冊
26	197,124人	131,732冊	76,727人	2,688人	5,378冊	688,799冊
27	209,526人	138,423冊	79,713人	3,054人	5,859冊	692,291冊
28	265,750人	130,005冊	82,588人	2,869人	5,604冊	694,272冊

2 要求額 214,165千円

(財源 財産運用収入 1,577千円、使用料 15千円、基金繰入金 16,863千円、企業局特別会計繰入金 50,000千円、雑入 1,100千円、一般財源 194,610千円)

(単位:千円)

細事業名	H30要求額			H29予算額			増減		
		県債他	一般財源		県債他	一般財源	県債他	一般財源	
図書館管理運営費	70,310	7,105	63,205	139,504	50,922	88,582	-69,194	-43,817	-25,377
図書館コンピュータ管理費	28,604	0	28,604	28,604	0	28,604	0	0	0
図書館事業費	41,577	11,287	30,290	31,776	808	30,968	9,801	10,479	-678
図書館改革事業費	73,674	51,163	22,511	11,853	40	11,813	61,821	51,123	10,698
合計	214,165	69,555	144,610	211,737	51,770	159,967	2,428	17,785	-15,357

子どものためのトイレ改修事業

文化財・生涯学習課（県立長野図書館）

1. 現状・経過

- 現在の県立長野図書館のトイレは、おむつ替えのスペースが一切ないこと、授乳室がないこと等から、特に子ども連れの来館者にとって非常に使いにくい状況である。
- 便器が和式であるため、子どもが一人でトイレに行くことを嫌がるが多く、保護者から便器の洋式化を要望する声もある。暖房設備も壊れており、寒さも相まって非常に閉鎖的で居心地の悪いトイレ空間となっている。



現在の個室

2. 主な目的・必要性

- 1Fのトイレは児童図書室の目の前にあるため、子どもとその保護者の利用頻度が最も高い。また、図書館だけでなく、若里公園の親子連れの来園者も利用することが多いため、1～3Fのトイレの中でも特に改修が望まれる。
- 現在の和式便器を、高さや大きさに配慮した洋式便器にし、子どもが一人でも安心して利用できるようなトイレ環境を整える。
- 授乳室、おむつ替えスペース、ベビーキーパーを設置し、子どもだけでなく、保護者にとっても快適に利用できるトイレ環境を整える。

3. 改修の内容

改修内容	設置予定 機器等	金額
・和式便器を子ども用にサイズ交換可能な洋式便器に取り替え	洋式便座（1台） ※周辺機器含む	220
・おむつ替え用スペースの確保	ベビーシート（1個）	130
・保護者が子どもと一緒に入れるようベビーキーパーを設置	ベビーキーパー（1個）	68
・子どもの丈でも使いやすい洗面台の設置	洗面台（1式）	965
・現在壊れている暖房設備の取り替え	ヒーター（1台）	38
・授乳室の設置	直接工事費（1式）	1,812
	授乳室（一式）	1,465
	温水器、洗面台の設置 等	
	合計（15節分）	4,698

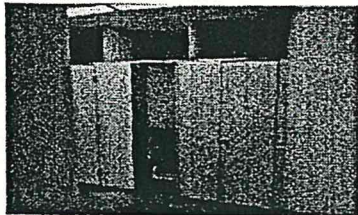
4. 予算要求額 5,198千円（基金繰入金 5,198千円） 平成29年度予算額 0千円

節	経費区分	内容	金額
13	政	設計委託費	500
15	政	改修工事費	4,698
		合計	5,198

県立長野図書館 1 F 子どものためのトイレ改修事業 概要・配置図

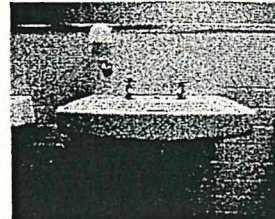
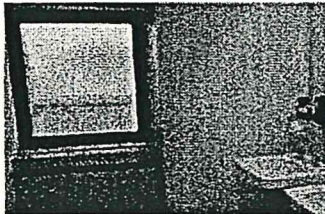
【現状】

外観



ベビーシートや授乳室、ベビーキーパー等、子どものための設備が全くないため、特に小さな子ども連れの保護者にとって非常に利用しにくいトイレとなっている。また、便器が和式であることから、子どもが一人で利用することを嫌がる人が多いため、利用者からも洋式化の要望がある。

洗面台周辺



洗面台周辺は長年の間にできたシミやヒビ割れ、くすみにより、掃除をしても汚れが落ちない。また暖房機器が壊れており、冬は特に寒いため、防寒対策が必要。



【改修後】

※写真はイメージ

ヒーター (38千円)

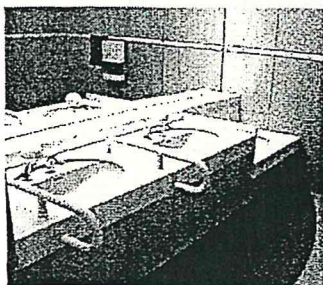


ベビーシート (130千円)

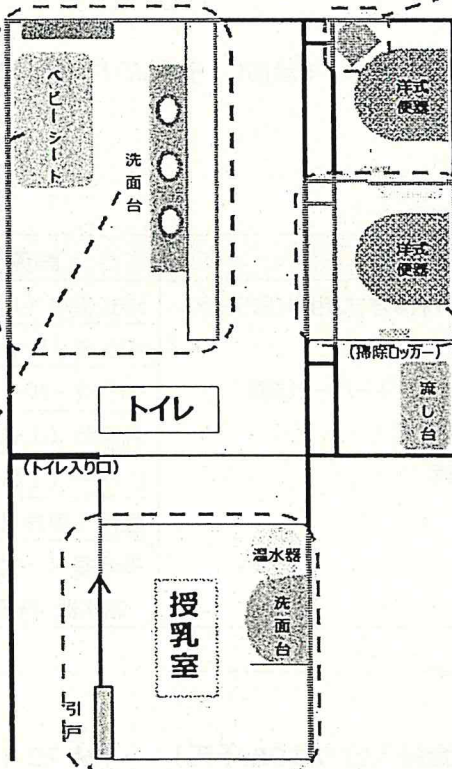


→子どものおむつ替えができるスペースを確保するため、ベビーシートを設置。また、暖房設備を整えおむつ替えや手洗い時の寒さを解消。

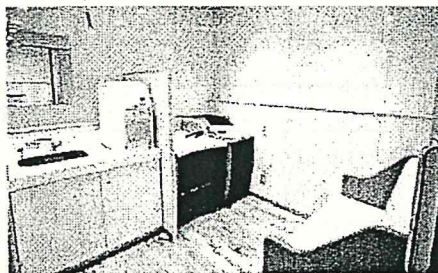
子どもが使える洗面台 (965千円)



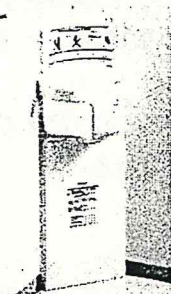
→子どもでも使いやすい、丈の低い洗面スペースを併設したタイプの洗面台を設置。



授乳室 (1,465千円)



ベビーキーパー (68千円)



→小さな子ども連れの保護者も快適に利用できるよう、ベビーキーパーを設置。

子どもが使えるトイレ (220千円)



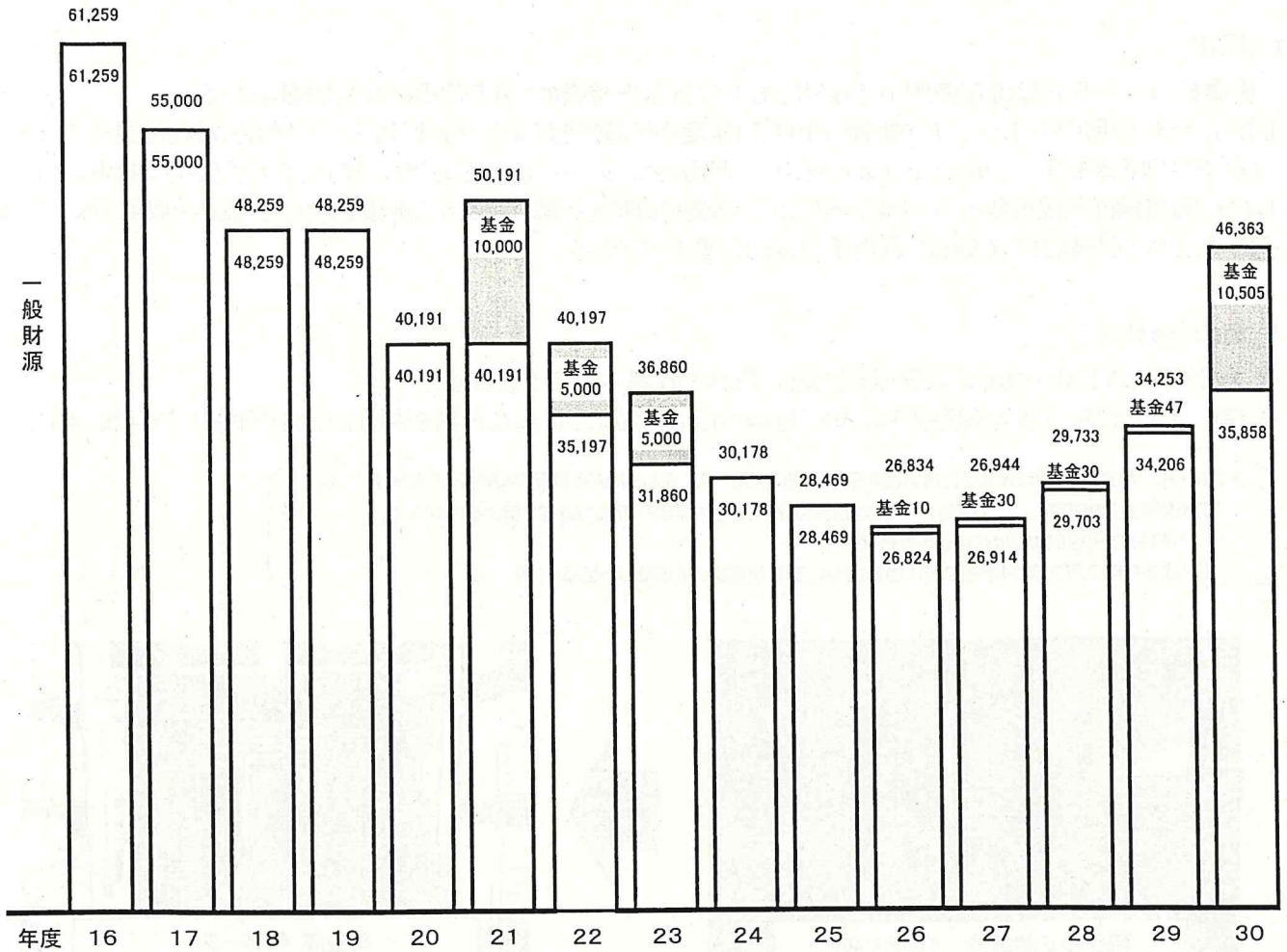
→和式便器を洋式化。子どもが安心して使用できるよう、高さ、大きさに配慮した便座(サイズを変換できるタイプ)を設置。

→給湯室を授乳室に改装。ミルクを作るために必要な温水器と、授乳スペースを確保。

子どものためのトイレ改修
合計 4,698千円
(工事費のみ)

図 書 購 入 費 の 推 移

当初予算 [単位:千円]



年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
一般財源	61,259	55,000	48,259	48,259	40,191	40,191	35,197	31,860	30,178	28,469	26,824	26,914	29,703	34,206	35,858
コーラル基金						10,000	5,000	5,000		図書館充実基金	10	30	30	47	10,505
計	61,259	55,000	48,259	48,259	40,191	50,191	40,197	36,860	30,178	28,469	26,834	26,944	29,733	34,253	46,363
増減		△ 6,259	△ 6,741	0	△ 8,068	10,000	△ 9,994	△ 3,337	△ 6,682	△ 1,709	△ 1,635	110	2,789	4,520	12,110
(%)		(△10.2)	(△12.3)	(-)	(△16.7)	(24.9)	(△20.0)	(△8.3)	(△18.1)	(△5.7)	(△5.8)	1.00	1.10	1.15	1.35

6F 書庫増設工事

文化財・生涯学習課（県立長野図書館）

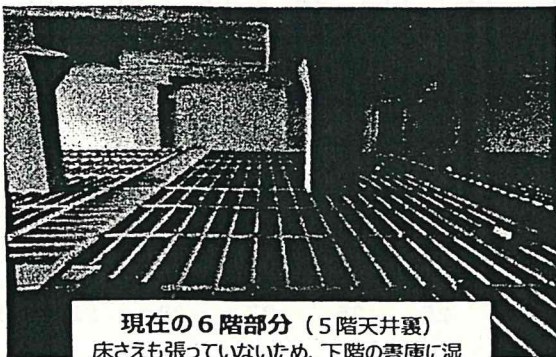
1 現状

書庫棟の1～5Fは現在使用中であるが、6Fは長年未整備のため未使用の状況が続いている。しかし、現在使用中の1～5Fの書庫は平成30年度中に満杯を超えるため、収蔵スペースが足りなくなる見込みである（詳細は別紙参照）。このままでは来年度中に、収蔵スペースの不足により必要な資料の購入ができない状況に陥ってしまう。図書館は県民の暮らしや仕事、学びなどに必要な資料を所蔵し提供する施設であり、そのための収蔵スペースを確保することは、図書館として施設を維持するための最低条件である。

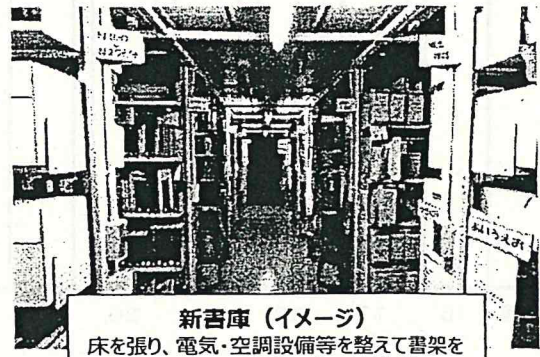
2 目的・必要性

- 未整備のままになっている6階書庫を整備し、資料の収蔵スペースを確保する。
- 特に、郷土資料（永年保存資料）の保管場所として確保し、貴重な資料を適切な環境で保存できるようにする。

※国からも、県立図書館は市町村立図書館等からの資料のニーズに応じるため資料保存の役割が求められている。都道府県立図書館は、…（中略）…次に掲げる機能に必要な施設・設備の確保に努めるものとする。
ウ 市町村立図書館の求めに応じた資料保存等
（平成24年12月文部科学省告示「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」より）



現在の6階部分（5階天井裏）
床さえも張っていないため、下階の書庫に湿気など悪影響を及ぼしている状態。



新書庫（イメージ）
床を張り、電気・空調設備等を整えて書架を設置し、書庫として使用できるよう整備する。

3 内容

場所	現行用途	改修後の用途	改修内容
6F	未整備のため 未使用	郷土資料書庫 (面積389㎡)	・壁面、床張り ・書架設置 ・適正かつ安心・安全に資料が保管できる環境の整備 (空調・電気設備・消火設備 等)

4 予算要求額

89,208 千円（一般財源 23,208千円 県債 66,000千円） H29予算額 0千円

(積算内訳)

場所	節	経費区分	内容	要求額(千円)	備考
6F [389㎡(118坪)]	13	臨	設計管理委託費	0 2,808	H30年度に設計及び 工事を実施予定
	15	臨	工事費及び書架設置工事	0 86,400	
			合計	0 89,208	

図書館改革事業

[H27~31 平賀プラン]

文化財・生涯学習課

1 目指す姿

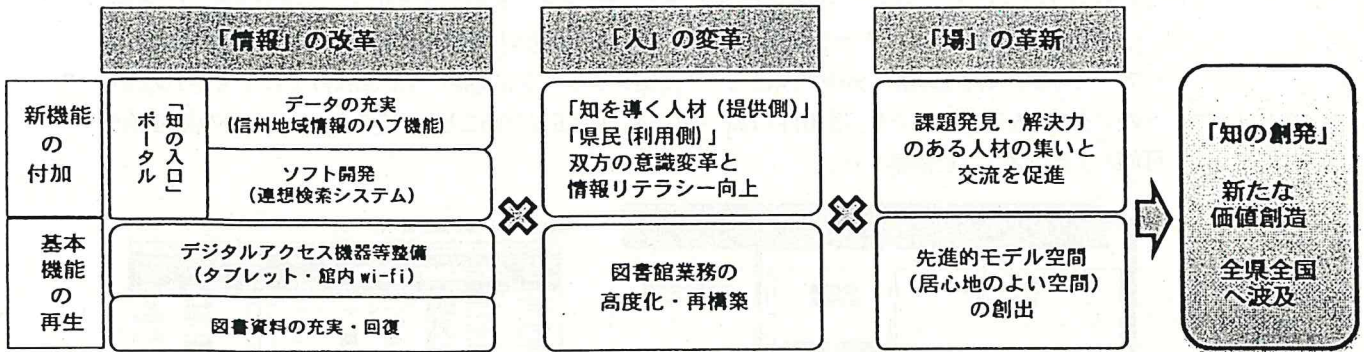
地方創生の新たな時代に対応し、県全体の図書館サービスの中核たる県立の図書館として、県内の公共図書館とともに、情報・知識基盤社会における多様な県民の知の拠点としての役割を果たす。

2 改革の概要

【改革の視点】 次の4つの視点から、H27~31の5か年計画で改革を推進中

- ① 「図書の蓄積・貸出・レファレンス」から県民の「学び」「情報の活用」「課題解決(糸口提供)」の支援への転換
- ② 公立図書館等への支援強化・ネットワーク構築(人材育成・運営アドバイスへ)
- ③ 県立の図書館としての基本機能の回復(全国最低水準の蔵書数、郷土資料・専門資料等図書購入費の増)
- ④ 業務の分業化・高度化による組織の体質強化(業務改善により改革財源を自ら捻出)

【事業展開のイメージ】



【主な改革事業の年度計画】

(単位：千円)

	主要項目	内容	H28	H29	H30	ポイント
「情報」の改革	信州「知の入口」ポータル構築	関係者等との調整に係る謝金・旅費 H29 機能仕様検討 H30 技術仕様書作成 H31 ポータル構築 (H32.3~導入予定)	321	903	877	○信州の様々な情報資産(デジタルアーカイブ)をつなぎ、一元的に検索・相互活用する「知の創発」のベースを構築 ○全国初、県単位の地域情報ネットワーク
	図書資料の充実・回復	新聞雑誌等データベース本格導入 郷土資料・専門図書等購入費	1,478 1,417	3,680 3,773	3,688 5,875	○県民への情報提供が本務の図書館にとって、資料費は存在意義に関する基本条件 ○各県と同等レベルの情報力水準へ
「人」の変革	図書館・県民の双方の意識変革 情報リテラシー向上	①これからの図書館実現フォーラム ※対象：県民(利用側)	331	352	262	○県民・図書館コア人材(司書)・地域の関係者それぞれに向けて、これからの公共図書館づくりを共に考え、共感・共有し実現する場を提供 ○県内図書館を活性化するムーブメントを作り出すとともに、各地の中核図書館と連携し県全域の底上げを図る
		②「かわる図書館スキルアップ研修」 「公共図書館職員実務研修」 ※対象：司書(提供側)	931	403	337	
		③つながる図書館ワークショップ ※対象：地域の関係者向け	249	874	1,049	
図書館業務の高度化・再構築	業務改善による嘱託司書への定数 振替・勤務内容の改善・リガ-報酬増	2人振替 勤務延長	嘱託リガ- 報酬増額 824	嘱託リガ- 報酬増額 851-796	○正規:企画・指導へシフト 嘱託:カウンター専任化 →業務高度化に見合う報酬増	
「場」の革新	先進的モデル空間の創出 ・ハイブリット図書館 ・「共知・共創」学びの場	タブレット・PC・Wi-Fi 機器維持	514	1,044	1,044	○紙情報とデジタル情報を同時に扱うことのできるハード環境、居心地のよい快適な学びの環境を一体的に整備 ○H30は3F一部を co-Learning スペースとして整備
		モデル空間の設定 H28 2F:ナレッジ・ラボ H30 3F:信州・学び創造ラボ	1,386	0	59,691 1,160 68,992	
計			6,627	11,853	73,674 15,143 88,817	

73,674
15,143

(基金繰入金(子ども未来) 1,160千円、企業局特別会計繰入金 50,000千円、雑入 3千円、一財 22,511千円)

3 H30要求額 82,830千円

県立図書館業務用システム更新 及び「信州・知の入口」ポータル構築について

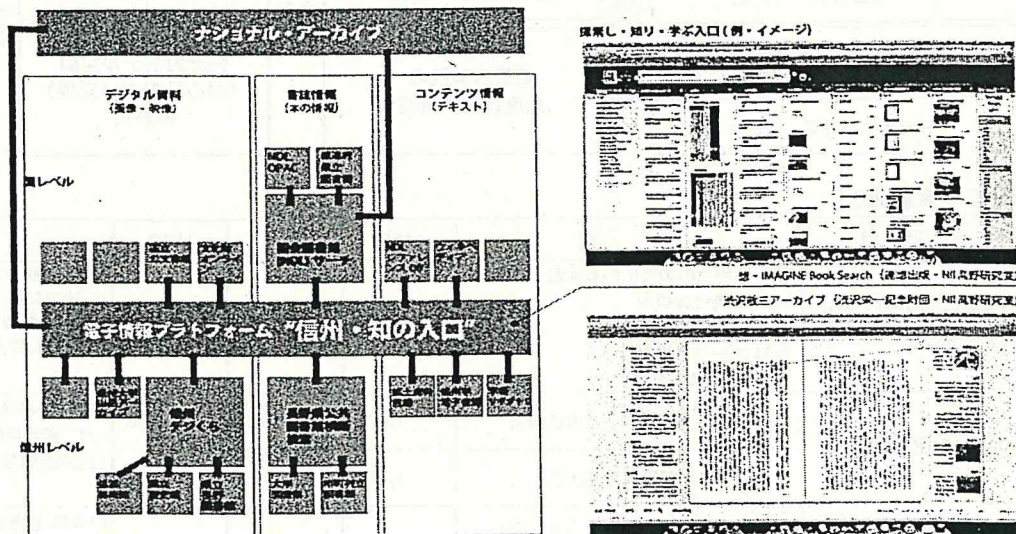
文化財・生涯学習課（県立長野図書館）

1 事業の目的

新総合5か年計画推進のエンジンとなる「学び」を推進するためには、県民が、自ら情報を探索・理解・選択し活用する力(情報リテラシー)を高めることが重要な課題である。信州に関する情報を、誰もが広く深く手にすることができるよう、信州の知の共有基盤を構築する。(H32.3導入を予定)

2 ポータル構築の基本的な考え方

- 「信州・知の入口」ポータルは、信州に関する様々な情報を一元的に引き出すことができる、インターネット上の情報検索ツール。検索対象として、国・市町村・研究機関・民間等が所有する、信州に関するDやアーカイブス等と連結し、通常のwebサイト検索エンジン(GoogleやYahoo!等)では表示されない情報へのアクセスを容易にしたり、信用性の高い情報を、深く広く知ることができるようDB同士の相互検索を可能とするシステムを構築する。



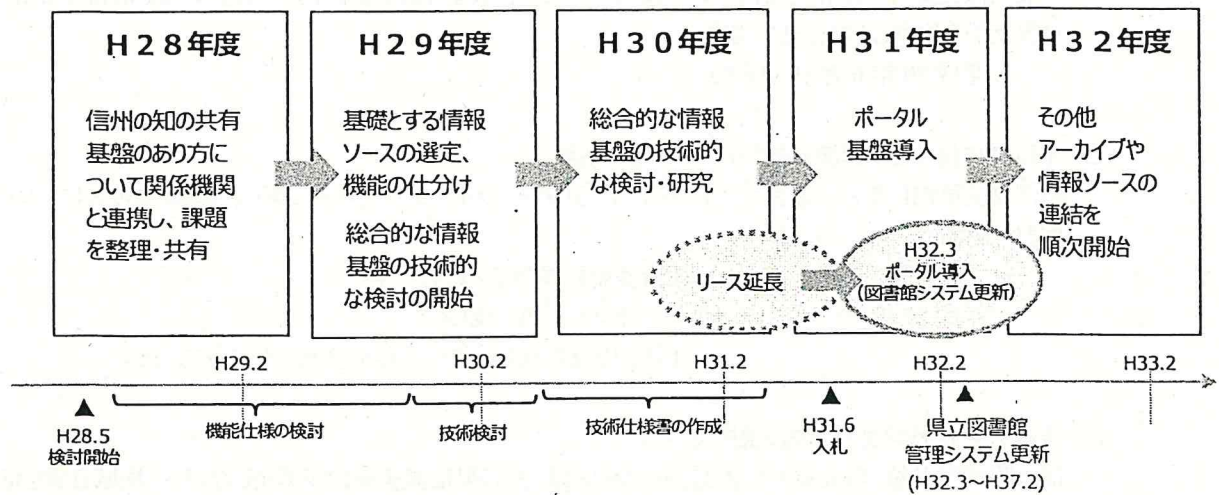
- 構築にあたっては、現行の図書館業務システムを再編し、基本機能を維持しつつ、新機能を付加する。

基本機能	<ul style="list-style-type: none"> ・県立長野図書館の蔵書管理 ・購入図書発注 ・図書の貸出返却 ・資料検索 ・レファレンス業務(調査相談支援) ・ホームページ情報提供 ・県内図書館の蔵書検索
新規機能	<ul style="list-style-type: none"> ・県機関(歴史館・美術館・県立大等)が所蔵する蔵書の管理・検索・公開システムの連結 ・信州に関する史資料情報、デジタルアーカイブデータベース等の横断検索システムの導入 → 県民の学びを支援するインターネット上のプラットフォーム「信州・知の入口」(ポータル)を構築

- 現行コスト内(24,000千円/年の5年リース = 120,000千円/5年) で実施。
ただし、他の県有システムと一本化することができる部分があれば、予算ごと統合したい。
【想定】歴史館蔵書管理システム、信州デジくら、信濃美術館蔵書管理システム、
高等学校図書館業務システム(富士通 LB@SCHOOL リース終了 H32.9)との連携を模索中

- 次の①～⑤について、リース契約内に含む。
①機器 ②サーバー維持 ③システム開発 ④保守メンテナンス ⑤Webページ及びコンテンツ管理

3 スケジュール



4 H30 要求額

877千円 (8節報償費 608,000円 9節旅費 269,000円) ※詳細別紙

【平成30年度の予定】 技術仕様書の作成

H28年度・H29年度に、関連機関と連携して実施してきた「機能仕様検討会」をベースに、システムを実際に構築するためのプログラムを定めた「技術仕様書」を、外部の専門家の支援を得て作成する。

※ 現行システム「県立長野図書館コンピューター管理システム」のリース期間はH26.3~H31.2であり、H30年度中(H31.3)に更新を迎えるが、技術仕様書の作成に時間を要するため、既存システムのリースを1年延長する。

5 H29年度実績

○ 「機能仕様検討会」の開催

アーカイブ構築、データベースシステム、検索システム、電子書籍との連携等の必要性を検討するため、各部門の専門家と「機能仕様検討会(情報基盤研究部門)」を、県立長野図書館で開催。

- ・ 第1回 平成29年8月18日(金)
- ・ 第2回 平成29年9月13日(水)
- ・ 第3回 平成29年10月4日(水)
- ・ 第4回 平成30年1月(予定)

4回

【参加者】① IRI 知的資源イニシアティブ理事 岡本明氏

② 大日本印刷(株)honto ビジネス本部エキスパート 花田 一郎氏

5名 ③ (株)カーリル代表 吉本龍司氏

④ (株)カーリルシステムエンジニア ふじたまさえ氏

⑤ (株)HUMI コンサルティング代表取締役 中村佳史氏

⑥ 国立情報学研究所 教授 高野明彦氏

(+) ⑥

○ 県機関が所有する書誌情報DBの連結に向けた試験的運用

長野県埋蔵文化財センターと連携協定を締結し、所蔵資料の書誌データを県立長野図書館へ組み入れるための検討会及び事務手続きに着手。

- ・ 平成29年5月12日(金)、6月16日(金) 打合せ
- ・ 平成29年6月30日(金)連携協定締結
- ・ 平成29年9月28日(木)打合せ
- ・ 平成29年10月12日(木)センターから資料搬入、受入作業開始

- 市町村が所有する資料のDB化及び活用に向けた検討
林業関係史資料の保存活用について検討するため、木曾町図書館、木曾山林資料館、旧帝室林野局木曾支局を視察し、打合せを実施。
 - ・ 平成 29 年 6 月 15 日(木)

- 本以外の情報との連携のあり方についての検討
新信濃美術館に新たに設置が予定されている「アートライブラリー」などに関し、協働のあり方について検討を開始。
 - ・ 平成 29 年 9 月 27 日(水) 信濃美術館準備室との打合せ
 - ・ 平成 29 年 10 月 31 日(火) アートライブラリー研究会
(東京国立近代美術館 主任研究員 水谷長志 氏)

- 信州大学附属図書館との連携構築
信大附属図書館、県立長野図書館、県立歴史館、長野県信濃美術館が連携しながら、地域資源を活用した学びの支援について県民の意識養成を図るため、戦略的MLA連携構築のためのフォーラムを平成 30 年1月頃に実施予定。(第1回 平成 28 年 12 月)

- その他関係機関との連携
 - (1) 高等学校図書館業務システムとの連携について
 - ・ 平成 29 年 6 月 22 日(木) 長野県高等学校図書館協議会システム委員会 打合せ
 - (2) 信州学コンテンツの作成に向けた連携について
 - ・ 平成 29 年 9 月 27 日(水) 教学指導課との打合せ
 - ・ 平成 29 年 10 月 21 日(土) 信州学サミット

平成30年度予算要望データベース

県立長野図書館

図書資料の収集に当たり、重点テーマである「信州で学ぶ」「信州で働く」「信州で暮らす」「信州でまちをつくる」を支援するDBを整備する。

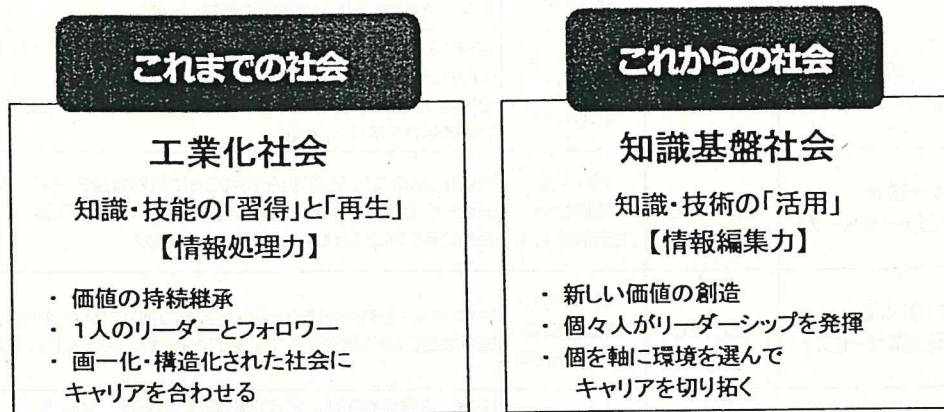
No	提供者 データベース名	H30予算 (円)	活用概要	概要
平成29年度から継続				
1	信濃毎日新聞社 「信濃毎日新聞 データベース」	453,600	地域学習 調べ学習 就活対策	過去から現在の信濃毎日新聞記事から、歴史・時事・生活を学ぶのに有効な新聞記事検索データベース 地元紙、明治6年の創刊当初からの地域の記事を効果的に収集するのに有効 就活に関する情報の効率的収集に有効
2	朝日新聞社 「聞蔵Ⅱ」	518,400	調べ学習 情報収集 就活対策	過去から現在の朝日新聞記事から、歴史・時事を学ぶのに有効な新聞記事検索データベース 平成9年以降の地元の記事も収集でき、調べ学習に有効 就活に関する時事情報の効率的収集に有効
3	日本経済新聞社 「日経テレコン」	155,520	ビジネス支援 調べ学習 就活対策	過去から現在の日本経済新聞系の新聞記事から、特に経済時事を調査するのに有効な新聞記事検索データベース 地域経済や都市のデータランキングなどが検索できるため、信州で起業を考えている方や地域経済を学ぶのに有効
4	(株)第一法規 「法情報総合データベース」	324,000	調べ学習 法律調査 生活問題対策	憲法から告示まで、法情報が検索できる法情報総合データベース 旧法も検索可能なため、法律の変遷などの調べ学習に有効 信州に暮らすにあたって生活問題の対策に有効
5	国立印刷局 「官報情報検索サービス」	25,920	調べ学習 法改正調査 生活問題対策	法律・政令・条例の公布どや国の政府調達の公告などが調べられるデータベース 国の法改正などを調査することで生活の備えやビジネス支援に有効
6	(一社) 農山漁村文化協会 「ルール電子図書館」	25,920	農業学習 農業支援	はじめての野菜作りから、セミプロ農業まで学べるデータベース 農文協発行の書籍のデータが呼び出せ、作物別の農業に関する様々な情報が得られるほか、農業入門・食とくらし館・しらべ学習などのコーナーから信州で暮らし、食と農を学ぶのに有効
7	日外アソシエーツ 「magazineplus」	115,992	学習支援 情報収集	一般紙から専門誌・大学紀要・海外誌紙まで収録した雑誌・論文データベース 範囲が幅広く、学術系から趣味の雑誌まで網羅しているため、さまざまなレファレンスに有効
8	(株)ネットアドバンス 「ジャパンナレッジ」	478,224	学習支援 情報収集	50種類以上の辞事典、雑誌記事、叢書などを一括で調べられるデータベース 百科事典、各種辞書(外国語含む)、歴史辞典、用語など調査可能範囲が幅広く、さまざまなレファレンスに有効
9	(株)ジー・サーチ 「J-DreamⅢ」	388,800	科学技術学習 ビジネス支援 医療情報提供	世界中の科学技術や医学・薬学関係の最新文献情報が得られるデータベース 医療情報だけでなく理科系全般の文献情報が見られるため、最新の科学技術の学習に有効
10	読売新聞社 「ヨミダス歴史館」	404,352	調べ学習 情報収集 就活対策	過去から現在の読売新聞記事から、歴史・時事を学ぶのに有効な新聞記事検索データベース 昭和8年以降の地元の記事も収集でき、調べ学習に有効 就活に関する時事情報の効率的収集に有効
11	毎日新聞社 「毎索」	311,040	調べ学習 情報収集 就活対策	過去から現在の毎日新聞記事から、歴史・時事を学ぶのに有効な新聞記事検索データベース 平成6年4月以降の地元の記事も収集でき、調べ学習に有効 就活に関する時事情報の効率的収集に有効
12	(株)ポプラ社 「ポプラディアネット」	108,000	児童学習支援 調べ学習	百科事典データベース 児童・生徒・学生に学習用資料をそろえたり、調べ学習の資料の充実が有効。マウスだけで検索できる機能・ふりがな対応で、児童のみならず多くの世代の活用が見込まれる。
13	(株)日本統計センター 「市場情報評価ナビMieNa」	378,000	ビジネス支援 地域学習 統計分析	さまざまな情報で創業・ビジネスを支援するデータベース 町丁目単位の商圏レポートや市町村、都道府県単位の地域特性レポートが調べられるため、信州で起業を考えている方や信州の地域を学ぶのに有効
合計		3,687,768		3,688千円

これからの図書館人 共育プログラム

文化財・生涯学習課（県立長野図書館）

1 プログラムの必要性

21 世紀は「知識基盤社会(knowledge-based society)」の時代といわれる。新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増すこの社会では、知っているか否かではなく、知っていることをどのように使うかが重要で、知識や技術の活用を軸とした【情報編集力】により新たな価値を創造することができる人材の育成が急務である。



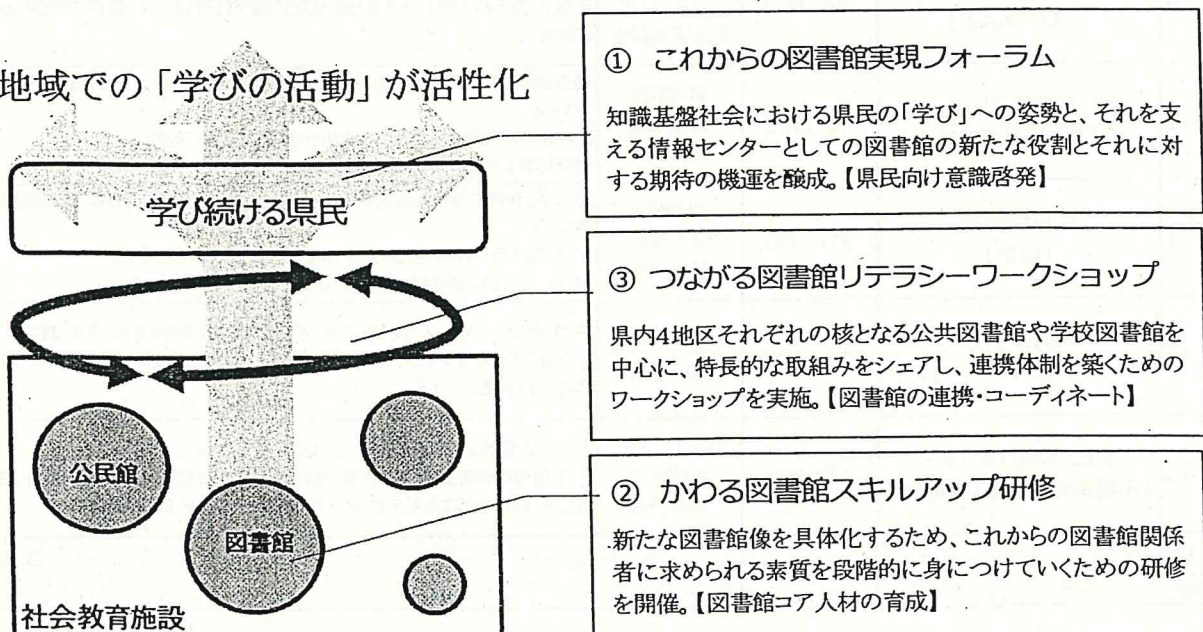
変化が激しい、予測できない社会において、必要とされる資質・能力は？

「問いを置き、課題の解決に貢献しながら学ぶこと」

県立長野図書館では、これからの社会を生き抜いていくために必要とされる資質・能力を備えた「学び続ける県民」を支援する社会教育機関として、知の基盤となる図書館の多様性と新しい姿を共に考え実現していくための3つのプログラムを実施する。

2 実施プログラムの位置付け

地域での「学びの活動」が活性化



3 H30 予算要求額 ※ () はH29 予算

① これからの図書館実現フォーラム	262	(352)
② かわる図書館スキルアップ研修	337	(404)
③ つながる図書館ワークショップ	1,049	(874)
合計	1,648	(1,630) ※ 詳細別紙

4 今後の実施予定 (集中的に実施するテーマ)

	H27	H28	H29	H30	H31
① これからの図書館実現フォーラム		地域課題解決のための自発的な学びの意識付け		情報リテラシーの向上	
			課題解決のために図書館の果たす役割		
② かわる図書館スキルアップ研修			公共空間としての図書館のあり方		資料のデジタル化による情報基盤の確立
③ つながる図書館リテラシーワークショップ		公共空間の役割検討		「信州学」の探求学習への支援と地域での学び	
				資料のデジタル化への技術的対応	

5 平成 29 年度実績

- ① これからの時代に求められる「創造性」を支える「情報編集力」を向上させるため、本だけではない様々な情報を組み合わせ、読み解き、新たな付加価値を生み出していくことの必要性と、それを社会変化のスピードに遅れることなく実現していくための情報基盤のあり方について考えるフォーラムを開催。図書館が「地域の情報拠点」としてこれからの学びを支え、県民誰もが「情報編集力」を向上させる機会を得られるよう、全県(市町村や一般県民)に対して引き続き広く意識啓発をしていく。
- ② 図書館コア人材を育成するため、地域の図書館とタイアップしたアウトリーチ型の研修を開催。市町村図書館が主体的に課題設定した企画を、県立図書館が共催、協働・支援した事例もある。このような事例は、モデル事例として県内公共図書館へ紹介し、今後県内各地域の拠点図書館を中心とした自発的取組みとして進むようコーディネートしていく。
 【つなぐ】情報基盤のデジタル化への対応 「利用統計を活かした蔵書構成と管理を考える」(小諸)
 【みちびく】知識基盤社会における学びの支援 「松本市学校図書館司書研修」(松本) 他
- ③ 公共図書館の特長的な取組みを共有するワークショップを開催。サービスの提供側だけでなく、利用者をも巻き込み、その地域ならではの図書館のあり方を考える活動が広がっている。
 ・デジタルアーキビスト養成講座 未来の信州学「みんなで作る『信州デジタルコモンズ』」(上田)
 ・「wikipedia LIB@信州 #02 小諸編」(小諸)
 ・「林業士入門講座【情報編集の基礎】 - データからモノへ -」(塩尻) など

「信州・学び創造ラボ」 県立長野図書館3階フロアプラン

- 急速に大きく変化する社会の中、これからの時代を生き抜いていく人々に必要なのは「創造力」である。そしてこの基礎となるのは、知識・技術のみならず、思考力・判断力・表現力を総合的に用いて多様な価値観との関わり合いの中から新たな解を生み出していく「情報編集力」である。
- IT革命(2000年)以降、図書館には「地域の情報拠点」としての役割が求められてきたことに加え、これからの方向性として、情報や人材などの資源を社会全体で共有し、新しい知恵をみんなで作っていき、開かれた学びの場（「知と創造の場」）としての役割が期待されている。

◎ 信州情報ゾーン

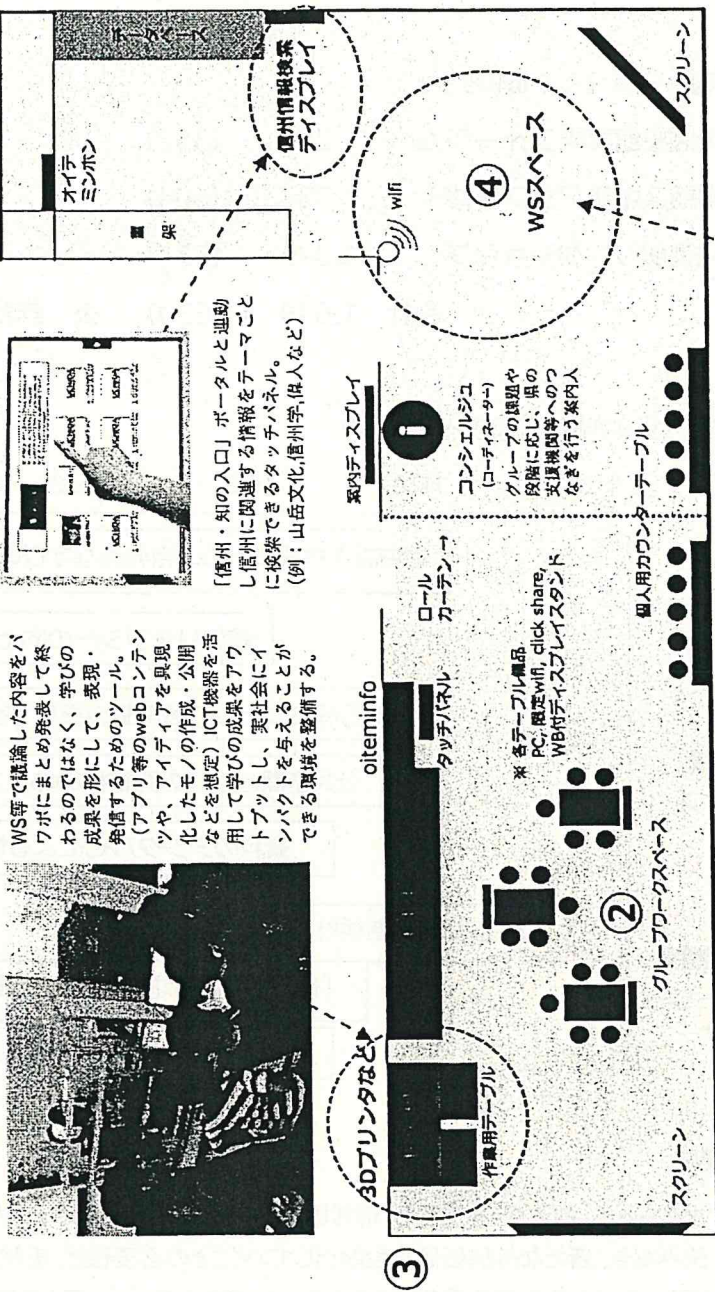
- ① 新総合5か年計画に関連する「学び」の資料を充実します。また、インターネット上のポータルサイト「信州・知の入口」を活用し、信州に関する情報を自らの手で広く深く知る事ができる環境を整えます。

◎ co-Learningゾーン

- ② 夢の実現に向けてアクションを起こし、仲間とともに新しい社会的価値を創造する学びが集うモデル空間を創出します。
- ③ 学びの成果をアウトプットできるツールを備えます。
- ④ 地域の図書館・公民館・大学などをオンラインでつなぎ、市町村等と連携して“co-Learning”を全県展開していきます。

< 連携予定先 >

- ・塩尻市立図書館（えんぱーく）
- ・小布施町立図書館（まちとよテラソ）
- ・伊那市立伊那図書館、高遠図書館
- ・松本中央図書館 ・安曇野市立図書館
- ・小諸市立図書館 ・飯田市公民館
- ・信州大学 ・県立大学 など



WS等で議論した内容をパワポにまとめ発表して終わるのではなく、学びの成果を形にして、表現・発信するためのツール。(アプリ等のwebコンテンツや、アイデアを具現化したモノの作成・公開などを想定) ICT機器を活用して学びの成果をアウトプットし、実社会にインパクトを与えることができる環境を整備する。

「信州・知の入口」ポータルと連動し信州に関連する情報をテーマごとに検索できるタッチパネル。(例：山岳文化、信州学、俳人など)

● H30 要求額 68-992 千円

工事業費	54,876 (企特会50,000、一財4,876)
備品購入費	1,982 (基金1,160、一財822)
機器リース	2,833 (一財2,833)
その他	67,764 千円

地域の図書館・公民館・大学などをオンラインでつなぎ、離れた場所同士でワークショップを共同開催したり、他県で行われているイベントや講座等を同時配信したりするなど、様々な場所で行われている学びを共有する。物理的な条件を揃えて実践の場をつなぐことで、学びのグループ同士のネットワークを拡げ、場所や地域に縛られることなく県全域で“知の創発”を促すことが可能。

Communities based on "co-Learning" Create Next Shinshu!